

アトリエ倭

ひとつひとつの模様やデザインに込められた“ものがたり”

建具職人で製作担当の進さんと、デザインを担当する佳子さん夫婦が営むアトリエ。おしゃれでシンプルなデザイン、思わず触れたいくなる、無垢の木のおもちゃと小物を製作されています。

どんどん好きのように遊べるおもちゃの自由感と日本の伝統の木組みの技や模様をじっくり観て手の中で組むことが出来る面白さに大人も子供も吸い込まれます。

大きな魅力は、一つ一つの模様やデザインに込められた“ものがたり”。特別なものではなく、昔から親が子に、贈り手から使う人に伝えられた素朴であたたかいものばかり。日本人が受け継いでいる伝統のところがそのままのおもちゃになっています。

ワークショップやイベントでの出店が多く、アトリエは店舗ではないため、訪問の際事前の連絡を。



■左/日本の伝統的な模様をモチーフにした独楽（こま）。右は子どもの成長を願って産着などに刺繍された麻の葉の模様をモチーフにしたもの。左下は積み石亀甲という模様。■上/流しそうめんの要領で転がってくるボールをスプーンや箸でつかむおもちゃ。カッパや一寸法師、スイカ、トマト、アヒルなど、流しそうめんにはありえないものも。■右上/「工房からの風」という字をカットし、参加者一人一人がペンダントとして持ち帰る。「どこかで誰かとつながっている」ことを大事にしたワークショップ■右下/『くで』という伝統の技を使った板状のブロック。2007年・グッドトイ受賞。

●アトリエ倭（やまと）
住所 ふじみ野市大井中央 1-10-12
問合先 ☎049-293-1392 工房見学の際は事前に連絡をお願いします
<http://a-yamato.main.jp/>



銭湯カフェ・末広湯

銭湯ルネサンスを目指して

取材時は、「色鉛筆サロン」が開かれており、講師はNHKで紹介されたり、新聞等で知られており、色鉛筆1本でまるで写真の様な独特な絵を描く林亮太先生で、この先生がどうしてここに?が最初の驚きでした。

この日の参加者は8人程で、2つのテーブルに分かれて、先生の持参した写真のレクチャーの後に各自が思い思いに描いていく形ですすめられていました。

参加者の中には、銭湯の常連さんでヨガ教室にも参加していると言うご婦人や、文庫本の表紙を描くプロの人もいて、流石にプロと言う出来栄に驚きました。

また、インターネットの時代を反映してネットで知って遠くから電車まで来ている方もいて、まだまだビックリでした。作品講評では、他の作品との比較やお褒めの言葉もあり楽しい時間がながれていました。教室終了後のカフェでは、ビールやコーヒーを飲みながら、情報交換やプロの描くコツなど多彩な話で盛り上がりしていました。この内容で、1,000円プラス1オーダーで行っている事にも驚きました。

もちろん、銭湯“末広湯”も営業しています。5種類の風呂があり、日本の伝統である銭湯文化を継続し、地域の人の憩いの場にしていきたいという熱い思いで、様々な事にチャレンジしています。

●銭湯カフェ・末広湯（すえひろゆ）
住所 ふじみ野市上福岡 3-7-4 ☎049-261-2848 (10:00~22:00)
銭湯 月・火定休日 銭湯カフェ 土曜日のみ 15:00~22:00
※銭湯営業時のカフェは、ロビーでのイートイン営業となります。詳しくはホームページかお問い合わせ下さい。
駐車場 2台（駐輪場あり） <http://suehiroyu.net/>



■右上/末広湯入口。カフェの看板も、HugCafeのロゴマークがかわいい。
■左上/ツナとほうれん草のパスタは600円。ドリンクメニューも有
■左下/末広湯二代目・カフェマスター佐原直司さん

■下/「色鉛筆サロン」林先生の描いた作品を見せながら、表現の仕方などを詳しく教える。奥には「ゆ」の文字の暖簾が見える。

休館日に繰り広げられる自由表現クラブ

むさし野たんぽぽ会

ここでは、絵画クラブ、陶芸クラブ、音楽隊など余暇活動を楽しみながら自身の閃（ひらめ）きや、湧き出る感情、伝えたい気持ちを身体のあらゆる部位を可能な限り稼働させキャンバスに写し出していった。

小さなアーティストの集いだ。

今回訪問させて頂いたのは、絵画クラブ。

この絵画クラブは YUJI さん(*1)を中心に子育て支援センターたんぽぽを利用している、障がいのある人や家族、友達などの絵画仲間たちが、遊びの中から創作を学び、のびのびと表現された作品に、きっとあなたの心に響くものがあることでしょう。

私は、この取材を通して多くのことを学ばせてもらい、幸せな気分が帰りました。素晴らしい個性だと思います。健康者とか障がい者とか関係なく、気づきと感動をもらいました。

最後に、人々がさまざまな個性や人格を持つように、障がいがあっても人それぞれ、いろんな個性があるということだと思います。

(*1) YUJI (ゆうじ)

愛知県立芸術大学油絵科卒業後、パリに渡る。欧州、日本などで個展を開く一方、巨大音楽紙芝居「BAKUの物語」を制作、演出し、ポンピドゥーセンター他で上演。帰国後は童話挿絵や絵本を中心に、個展、ライブパフォーマンスなどを展開中。

<http://yujiwonderland.com/illustrations/illustrations.html>

●主な作品絵本/「白い犬とワルツを」(ゆまに書房)・「菜の子先生がやってきた!」(福音館書店)



■左上/指導員の促しで色を重ねていく
■右上/南保亮太さん(中央)の作品。「ココくん」というオリジナルキャラクターが登場する
■中左/絵の具の感触を感じながら色の中で遊ぶ
■左下/私たちに定位を占領され、最初は筆が全く進まなかったが、帰る頃には一枚の絵ができあがっていた

●社会福祉法人 むさし野たんぽぽ会
設立 2010年(平成22年)8月5日 理事長 柳川 道子
事務局 〒356-0058 埼玉県ふじみ野市大井武蔵野 1282-7
問合先 ☎049-269-7005 FAX 049-269-7006
<http://tanpopo805.com/>

ふじみ野ART88 私たちが考えるアート

野に咲く花や子どもの小さな手も”感じる心”さえあればその人にとってかけがえのないアートになります。この冊子ではスポーツ、音楽、能、子育て、教育、コンテンポラリーダンス・・・様々な分野の有志が集まりそれぞれの感性でふじみ野市の素敵な人、物、活動を綴ります。

有名だから、芸術と言われるカテゴリーだからなど既成概念に囚われることなく『気付き』や『好奇心』を与えてくれるものをアートと位置づけ、それを表現する人、発見する人、発信する人、受け取る人・・・アートを中心とした人と人とのつながりを作って行けたらそれが一番素晴らしい『アート』になるのではないかと考えます。アートを通じて【心を育てる街づくり】を目指して参ります。

掲載させていただいた物の中には参加したり実際に見ることが出来るものもありますので是非皆さまの”感じる心”に出会いに行ってください。皆さまからもふじみ野市でこんなものを見つけたよ!などお声をいただくと嬉しいです。

発行/ふじみ野市文化・スポーツ振興課
編集/ART88プロジェクトスタッフ 表紙写真/岩附利光
〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福岡 1-1-1 ☎049-262-8124
メール bunka@city.fujimino.saitama.jp

ふじみ野 ART88 発見発信 Vol.1 2016.4.1



子ども絵画教室 わかば会

講師 菊池良江さん

子どもたちの楽しそうなおしゃべりが聞こえる部屋。笑顔でたたえながら優しい静かな声で囁くように色の塗り方を教えていた。『ふじみ野でも教えてもらえませんか?』と引越した教え子に誘われて35年、目白の自宅から指導のためだけに毎週電車に乗る。自宅から最寄り駅まで徒歩15分、上福岡駅から教室のある公民館まで徒歩。この道のりを画材や絵のモチーフに使う瓶や果物といった荷物を持って移動。大人の絵画教室を教えた後にそのまま子どもの教室で休む間もなく指導にあたる。御年80歳。技術、経歴も素晴らしい方だが何よりも「タフ」なのだ。我々が取材した日も教室が終わるまでの1時間半、一度も椅子に腰かけなかった。

わかば会は幼稚園年長から小学校6年生までの児童が楽しく絵の基本を学ぶ教室だ。季節のモチーフを描いたり、ポップアップカードを工作したり、時には一月かけてコンクールへ挑戦する作品に取り掛かるなど聞いているだけでワクワクしそうな取り組みを行っている。この日は静物画に取り組んでいた。緑のワイン瓶とリンゴ、小人の人形に終・・・ある子は水彩ある子はクレヨンで、60色のクーピーで好きな画材で好きなタッチで時に空想を交えて自由に描いていた。先生は子どもたちの顔を見ながら席を回り迷いが見れば手直しをし、集中している子にはあまり話しかけない。一人だけに聞こえるような声で何を思っただけのように見せたいかど気持ちを感じていく。曰く「絵の基本、一番大切なのはデッサン力。だけど感性を育てたい。綺麗なもの、感動できる感受性を大切にしている。」「心が美しくて人の気持ちか考えられる人になるといい。」教員免許をお持ちと聞いて

得した。

元気の秘訣を伺うと子どもたちから元気をもたらしていると微笑んだ。先生自身も現役の芸術家で国内外の展覧会へ螺鈿の工芸を中心に出品されている。油絵から日本画まで幅広く学ばれており、二人のお子さんも芸術の道へ進まれている。



■左・上段中央／思い思いの画材で絵を描く。■右上／講師の菊池さん。■左下／立ちながら集中して絵に取り組む。

活動日 毎週金曜日 午後4時30分～午後6時
活動場所 上福岡公民館
問合先 林 ☎090-9960-4925
飛び入りの見学も大歓迎です。
<http://fujiminowakabakai.web.fc2.com/>



大井旭囃子保存会

代表 塩野敏和さん ～夢は全国子ども郷土芸能大会出場～

大井囃子は疫病除けの天王様(てんのうさま)のお祭りに賑やかさを添えるために始まったと伝えられている。御輿には文化14年(1817年)と墨書きされた幣束が納められており、約200年前から継承されている計算になる。この大井囃子は昭和54年に大井町民俗無形文化財の指定を受けているが、明治の大火を2回受け、資料は残っていないという。

お囃子に関することは全て口伝で伝えられる。例えば川越城の上覧囃子。・・・大井囃子は川越のお城のお抱え囃子だったが、太鼓を叩いている最中にバチを落としてしまった。舞台上に居た観客が拾って投げたバチを受け取ってすぐに叩き出し、拍手喝采をもらった。・・・光景が目には浮かぶ語り口だ。

今は塩野さんたちの世代が新人を指導するが、塩野さんが囃子に参加した頃は教えてくれる人は一切いなかった。すべてを見て覚える。部屋の隅に座って、じーっと先輩の笛、太鼓、踊りを見ていたという。「・・・テケテン、ウヒヤラカウヒヤラカ、ピ」という具合に音符ではなく唱歌だ。ちょっと聴いたぐらいではちっとも覚えられない。でも、長年参加している女性はすっかり覚えてしまっているようで、塩野さんが「もう大丈夫だな」と満面の笑みでうなずく。

多くの民俗芸能がそうであるように後継者不足が大きな課題だが、小学校の総合学習で体験会を開き、子どもと親が参加し始めている。将来の夢は全国子ども郷土芸能大会に出場すること。

代表の塩野さんは現在77歳。10代の頃からお囃子を習い始め、今でも自分のお囃子の腕はまだだと思ってしまう。市内で郷土芸能大会を開いて切磋琢磨したいと話していたのが印象的だった。



■左上下／ベテランの見守り中でおさいをする。大太鼓は加入4年目の中学生が担当している。頼もしい。

■右上／笛を担当する地元の若衆。笛はお囃子の要。■右下／練習場所には天王様で演奏する囃子の写真が飾られている。

練習日 不定期 練習場所 大井旭祭会館
問合先 塩野敏和 ☎049-261-4841
体験・見学希望の方は事前にご連絡ください。

ガラス工房 彩硝房 (さいしょうぼう)

上福岡の住宅街にある、ガラス工房です。入り口では、「生活の中にアートを」をテーマに作られた色とりどりのガラスたちが並べられています。取材時、工房内からはガラス作品づくりの音が聞こえてきて、1994年に吉野晃司さんより設立されて以来、たくさんの作品が生まれてきたことを物語っていました。

ガラス体験教室(随時予約制)では、ガラス制作にチャレンジすることで、作る楽しみを味わうことができます。吹きガラス体験では、工房管理者の吉野マサキさんが一人ずつ丁寧に教えてくださいました。

ガラス制作の場である「彩硝房」。「生活の中の美としてガラスを多くの人に知ってもらい、未来へつづくものづくりのため工房でありたい。」吉野さんの思いが作品から伝わってきます。

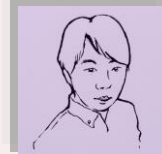


●ガラス工房「彩硝房」
住所 ふじみ野市上福岡 5-6-17
<http://homepage3.nifty.com/saisho-bo/>
Mail saisho-bo@nifty.com
工房見学、体験希望の際はメールで事前ご連絡をお願いします。

■左／工房入口の看板はステンドグラス。■左下／入口を入ると色鮮やかなガラスたちが目に入る。■右上／ガラス制作の体験。炉の近くはかなり熱い。硝子が冷えてしまうので、のんびりしてられない。■右中／いろいろな道具がきれいに並べられている。■右下／吉野さんの作品。手前はお雛様。

A88 プロジェクト スタッフ紹介

このプロジェクトは7人の公募スタッフにより企画、取材及び編集をおこないました。スタッフの横顔を紹介します。



●相原 嵩 (あいはら・たかし)
ふじみ野市育ち。バリトン歌手として活動中。歌とお芝居の劇団 Viva la Voce を主宰。夏冬の2回、産業文化センターで公演しています!



●佐々木 志津香 (ささき・しづか)
二人の男の子の育児中。憩の森実行委員として、森っこベビーや森カフェを企画。親子で自然体験を楽しむ「ファミリームツレ」主宰。2016年1月「ふじみ野シェアリングネイチャーの会」を設立。身近な自然を多世代で楽しめる場作りに向け活動しています。



●川名 美津雄 (かわな・みつお)
埼玉県舞踊協会、現代舞踊協会に所属。モダンバレエを通して、小さい子どもから大学生までの身体訓練や身体表現の指導にあたりています。



●松村 吏沙 (まつむら・りさ)
特別支援学校で美術・木工の授業を担当。大学ではガラス工芸や織り・染め、陶芸などに取り組んでいた。ふじみ野市内のガラス工房が気になって参加しました。



●石子 正明 (いしこ・まさあき)
ふじみ野市で子どもエコクラブを立ち上げて2年目、三芳町で14年目になります。文化活動では、観世流の能の門弟になりました。趣味で能面打ちを行っています。



●篠島 幹昌 (しのじま・みきまさ)
このプロジェクトに参加するようになり、『アート』を探す癖がつかまりました(笑)。つい先日でもデパ地下の和菓子コーナーで「美味しそう・・・もといアートだな」って思いました(笑)。普段は、ふあいぶるクラブという活動で文化、スポーツを通じた場づくり、まちづくり活動をしています!



●渡部 純子 (わたなべ・じゅんこ)
ふじみ野在住7年目。主婦。学校ボランティアで読み聞かせ等を行う三児の母。コピーライター経験と様々な廃材から洋服を作る技術を持つ。